CanBas
Cancer therapy by Basic research

株式会社キャンバス

《証券コード:4575》

2016年6月期第2四半期決算説明会

2016年2月23日

Part 1
2016年6月期第2四半期
決算報告

2016年6月期 2Q決算

1. 決算のポイントとトピックス

- 事業収益50百万円計上
  - ✓ Stemline社とのCBS9106提携（2014年12月）による収益
    - 技術アドバイザリーフィー → 契約開始から4年間ほぼ安定的な収益となる見通し
  - ✓ 研究開発費 対前年同期比・対予算比 いずれもやや増加
    - 基礎研究費（研究用消耗品費）・特許申請費用
    - 通期業績予想修正なし
- 資金調達の状況
  - ✓ 第10回新株予約権発行（2015年7月割当）
    →フェーズ2b試験費用の調達を目指す
    - 2015年12月までの行使 295,000株分（調達累計 約250百万円）

2016年6月期 2Q決算

2. 貸借対照表概要

（単位：千円）

		2015年6月期	2016年6月期 第2四半期	増減（参考値）
資産の部	流動資産	953,097	1,072,083	118,986
	現金及び預金	885,355	900,945	15,590
	売掛金	50,958	101,502	50,544
	固定資産	44,762	49,433	4,671
	有形固定資産	23,449	27,875	4,426
	資　産　合　計	997,859	1,121,517	123,658
負債の部	流動負債	33,083	37,868	4,785
	固定負債	―	―	―
	負　債　合　計	33,083	37,868	4,785
純資産の部	株主資本	945,720	1,059,361	113,641
	資本金	3,788,146	3,914,573	126,427
	資本剰余金	3,774,996	3,901,423	126,427
	利益剰余金	△6,617,205	△6,756,420	△139,215
	自己株式	△215	△215	―
	新株予約権	19,054	24,287	5,233
	純　資　産　合　計	997,859	1,121,517	123,658

Stemline社 技術アドバイザリーフィー（2016年1月入金済）

新株予約権行使に伴う新株発行

CanBas
Cancer therapy by Basic research

2016年6月期 2Q決算

3. 損益計算書概要

	2015年6月期 第2四半期	2016年6月期 第2四半期	増減(参考値)
事業収益	11,369	50,543	39,174
事業費用	173,365	186,903	13,538
研究開発費	80,904	92,933	12,029
販売費及び一般管理費	92,461	93,970	1,509
営業利益	△161,995	△136,359	25,636
営業外損益	11,774	△2,229	△14,003
経常利益	△150,220	△138,589	11,631
特別損益	―	―	―
税引前四半期純利益	△150,220	△138,589	11,631
四半期純利益	△150,845	△139,214	11,631

研究費微増

CanBas
Cancer therapy by Basic research

2016年6月期 決算

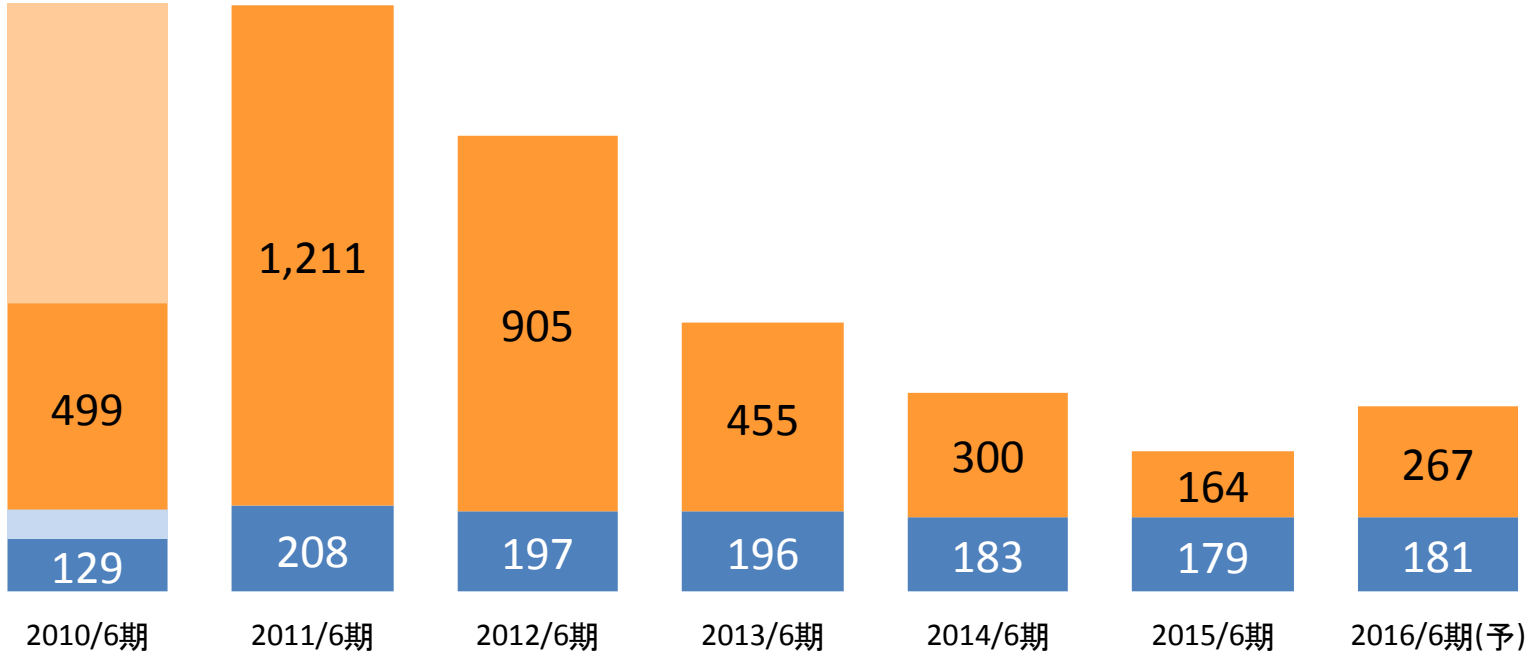
4. キャッシュフロー計算書概要

	2016年6月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△226,665
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,390
財務活動によるキャッシュ・フロー	257,112
現金及び同等物に係る換算差額	△1,465
現金及び同等物の増減額	15,590
現金及び同等物の期首残高	885,355
現金及び同等物の四半期末残高	900,945

新株発行収入・
新株予約権発行収入

2016年6月期 通期見通し

- 事業収益：105百万円
  - ✓ よほど特殊な事態が発生しない限り見込まれる最小値
- 事業費用：フェーズ2b試験用原薬製造費用などを予算計上



CanBas
Cancer therapy by Basic research

主要な適時開示等

2015年7月～2016年2月

- CBP501用途特許 米国特許査定受領（2015年10月5日）
  - ✓ CBP501の投与対象を白血球数で絞り込む
  - ✓ 実質的なCBP501特許保護期間が大きく延長されると期待
    →開発が成功し上市に至った場合の期待収益予想値も大幅に増大
- CBP501新知見に関する学会発表（2015年10月27日）
  - ✓ 2015年11月5-9日 AACR–NCI-EORTC
- CBS9106 欧州特許査定受領（2015年10月28日）
  - ✓ CBP501とともに日米欧3極の特許確立
- 東京大学との共同研究契約締結（2016年2月9日）
  - ✓ ヒト膵臓癌に近い膵臓癌発症モデルマウス
  - ✓ CBP501の免疫系への効果も含めてた検証 →詳細はPart 2で

Part 2
2016年6月期第2四半期
事業報告

「研究開発ビジョン」

2015年8月決算報告会資料

- 短期・中期の目標
  - ✓ 直近最大の目標・・・CBP501臨床開発進捗 → フェーズ2b試験
  - ✓ 中期の目標・・・新規パイプラインの創出
    - ➢ CBP501のたどり着いた作用機序を突き詰め、第2世代を生み出す
- 並行して進める事業
  - ✓ Stemline社によるCBS9106/SL-801開発のサポート
  - ✓ CBS9106に関する日本・中国・台湾・韓国での開発提携獲得
  - ✓ CBS9106バックアップ・第2世代の模索
  - ✓ 細胞の挙動に着目したスクリーニングによる新規抗癌剤候補探索

2016年6月期 2Q事業報告

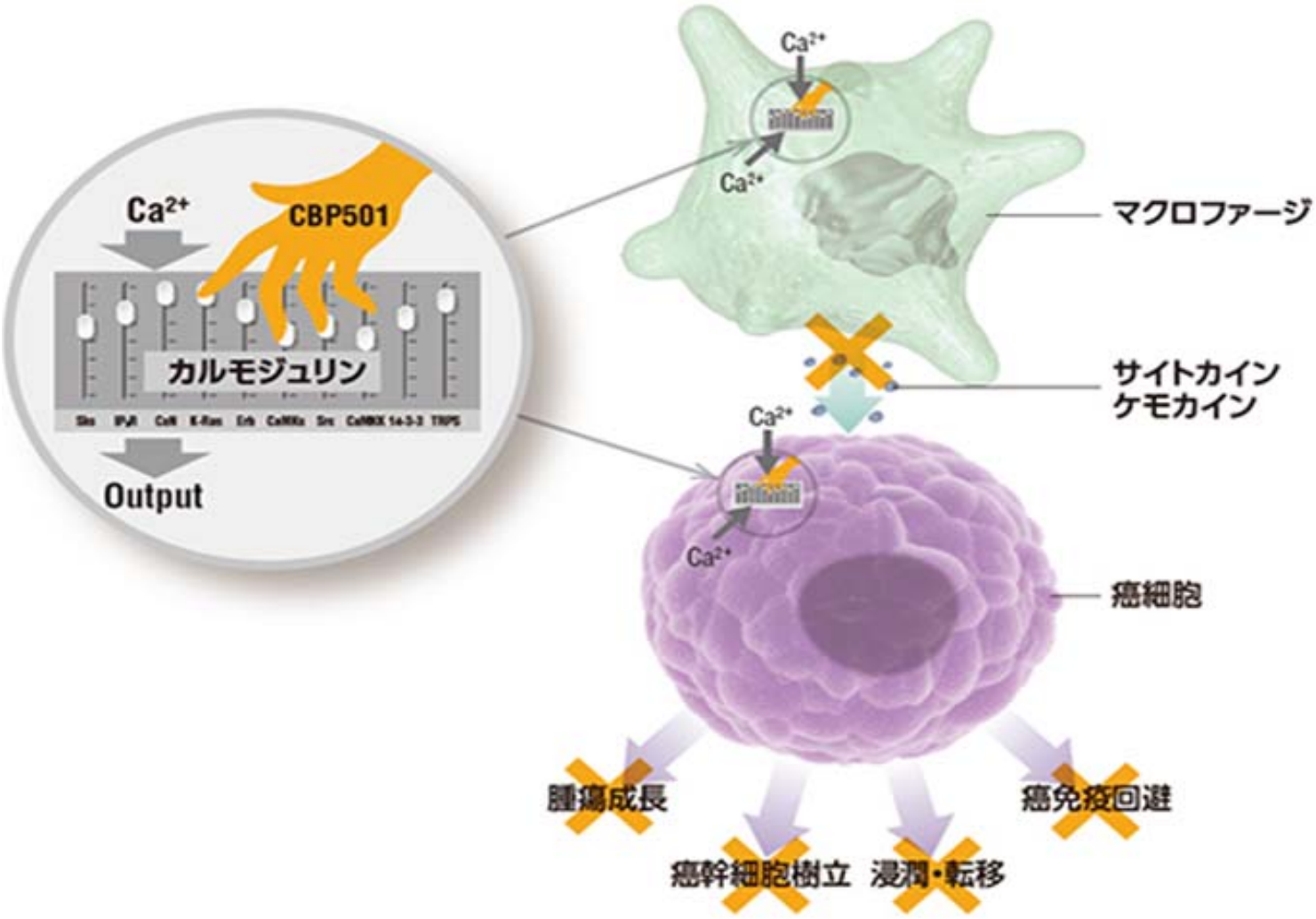
開発パイプラインの状況

- CBP501
  - 新知見・仮説の検証
    - ✓ 東京大学医学部附属病院との共同研究
  - 臨床試験準備
    - ✓ 薬剤発注
  - 次世代CBP開発プロジェクト

- CBS9106
  - 臨床試験開始準備 → Stemline社への協力

CBP501の新知見

「カルモジュリン・モジュレーター」



CanBas
Cancer therapy by Basic research

CBP501可能性拡大模索

東京大学との共同研究

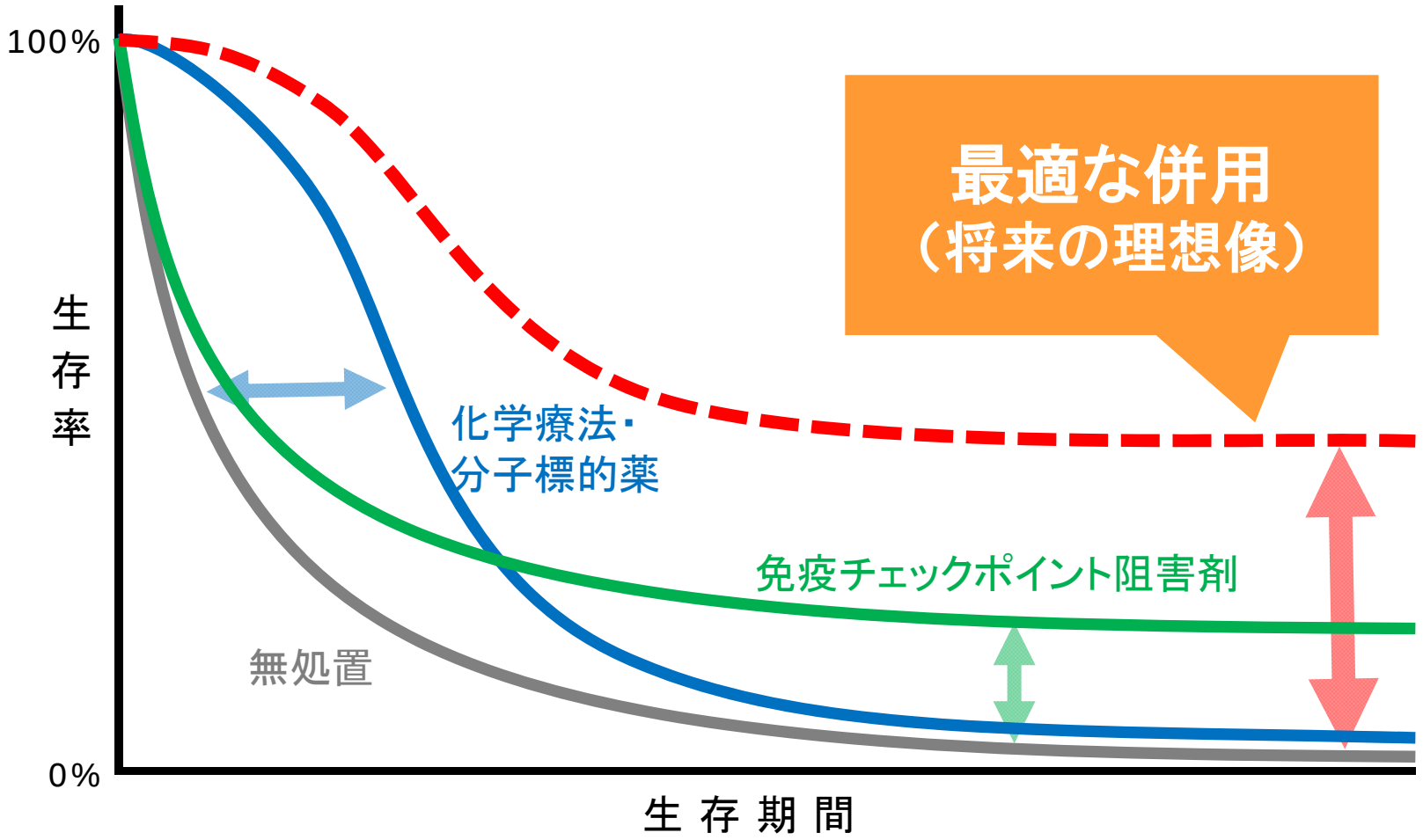
- 遺伝子改変により膵臓癌を発症するマウスを使用

  - ヒト癌細胞株を免疫不全マウスに皮下移植した通常のモデルとの違い
    - ✓ 癌の育つ微小環境がヒトの癌に近い

      → 免疫系・新成血管・間質など周辺組織への影響を含めた薬剤の作用を検証できる
    - ✓ 効果が確認出来れば、新たな適応や新たな抗癌剤との組み合わせの臨床試験を行う強い動機付けになる

→CBP501の魅力向上につながる

次の併用へ



CanBas
Cancer therapy by Basic research

次世代CBPプロジェクト

抗CTLA4，PD1，PDL1抗体の成功

CD28アゴニスト抗体事件

免疫制御薬候補の開発競争

標的リスト（一部）

CD28/B7.1	CX3CL1
CD137/CD137L	CXCL9
OX40/OX40L	CXCL10
CD27/CD70	CCL5
HVEM	LFA1/ICAM1
GITR	Selectins
CTLA-4/B7.1	T cell receptor
PD-L1/PD-1	CSFR-1
PD-L1/B7.1	TLRs
Prostaglandins	COX-2
LAG-3	CD39/CD73
Arginase	A2AR
IDO	PDE5
MICA/MICB	P2X/P2Y
BTLA	iNOS
VISTA	B7-H4
TIM-3/phospholipids	

大部分の場合
多剤併用が必要
（単独では
効果が限定的）

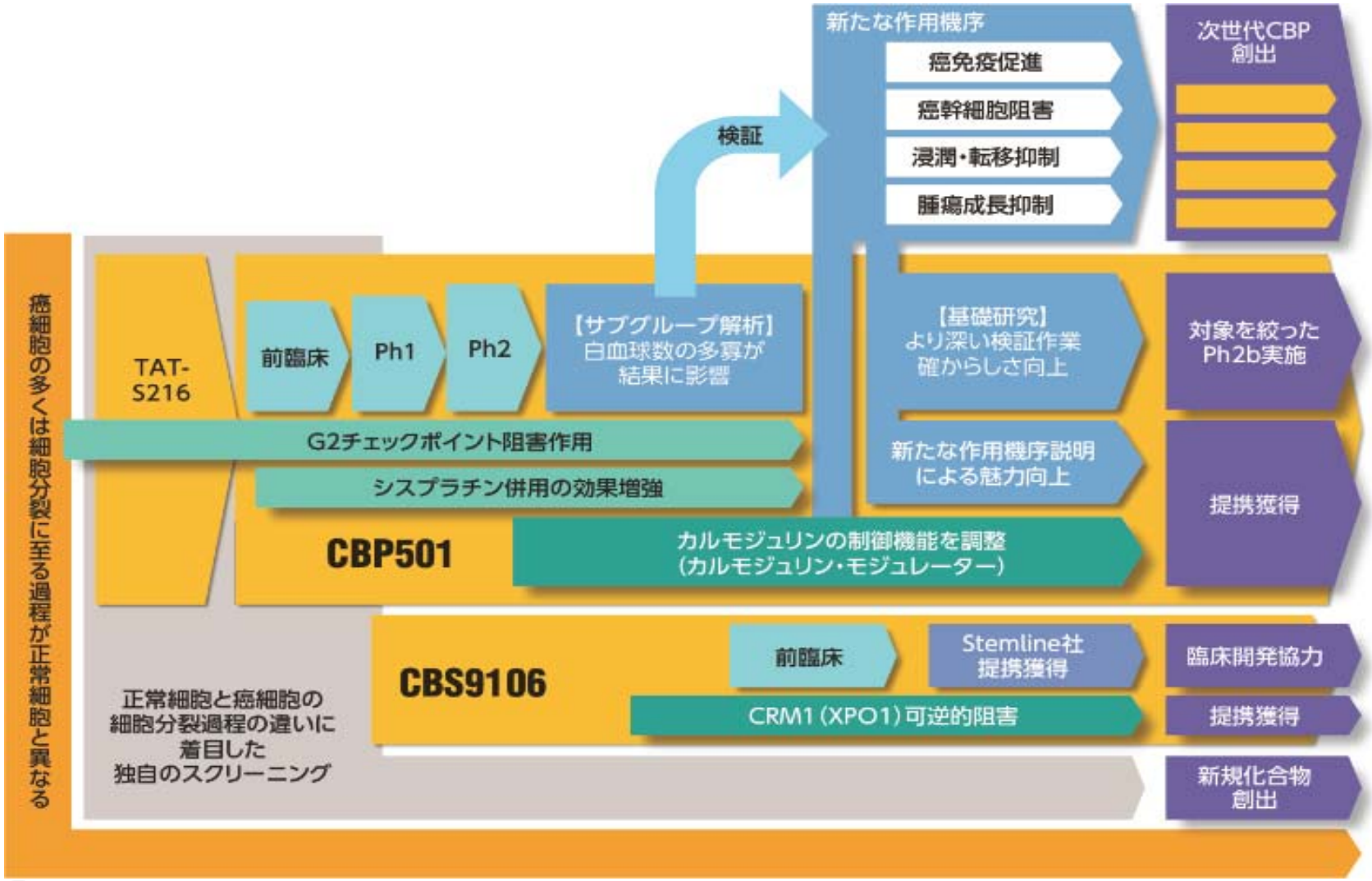
抗体薬は、バイオシミラーでも高価

医療財政
破綻

先進国民しか
恩恵を受けない

CanBas
Cancer therapy by Basic research

研究開発ビジョン



CanBas
Cancer therapy by Basic research

CanBas

Cancer therapy by Basic research

将来見通し等に関する注意事項

- 本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

お問い合せ先：

株式会社キャンバス　管理部 IR担当
電話　055-954-3666　　Email　IR@canbas.co.jp